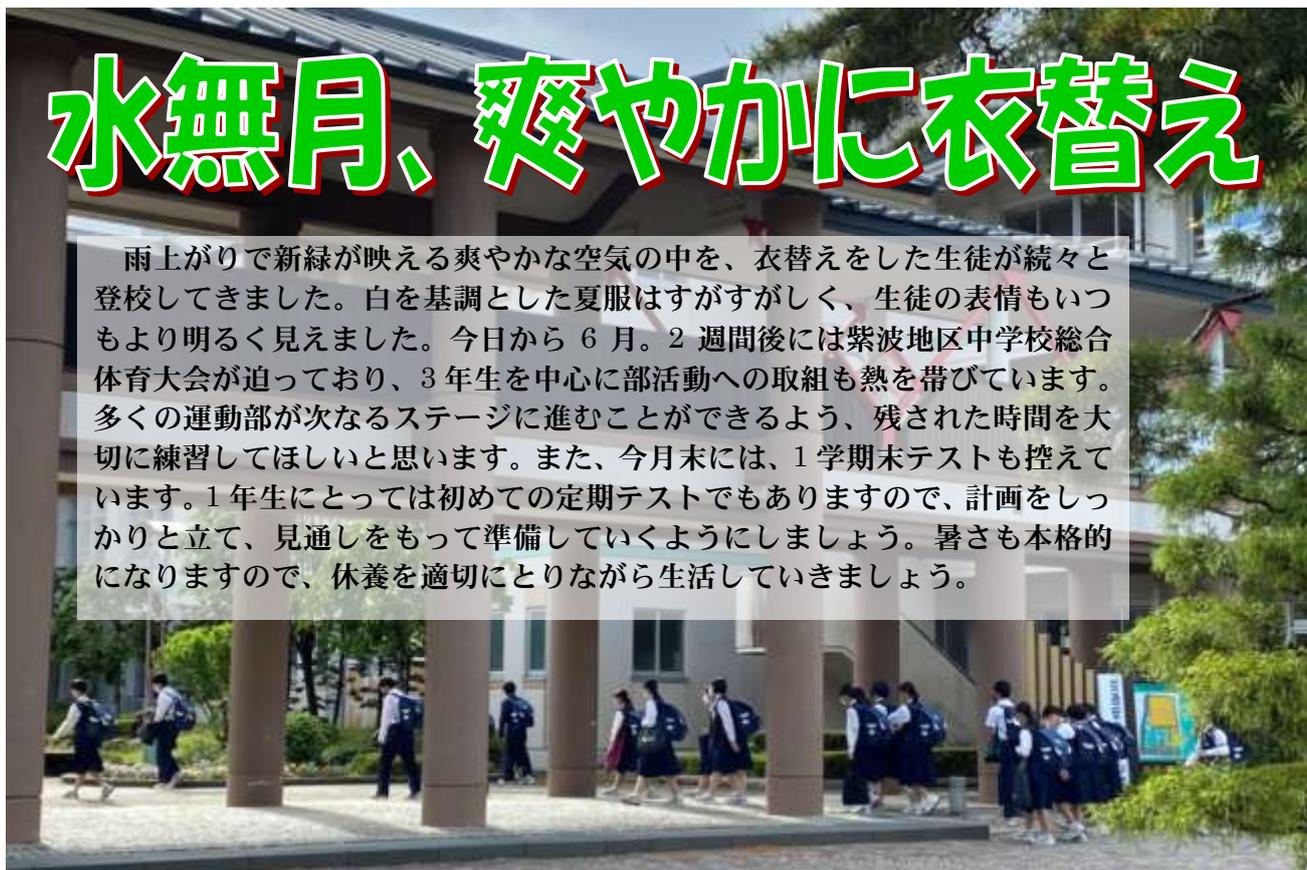




水無月、爽やかに衣替え

雨上がりで新緑が映える爽やかな空気の中を、衣替えをした生徒が続々と登校してきました。白を基調とした夏服はすがすがしく、生徒の表情もいつもより明るく見えました。今日から6月。2週間後には紫波地区中学校総合体育大会が迫っており、3年生を中心に部活動への取組も熱を帯びています。多くの運動部が次なるステージに進むことができるよう、残された時間を大切に練習してほしいと思います。また、今月末には、1学期末テストも控えています。1年生にとっては初めての定期テストでもありますので、計画をしっかりと立て、見通しをもって準備していくようにしましょう。暑さも本格的になりますので、休養を適切にとりながら生活していきましょう。



内容の深さに驚き！



ギル愛衣美さんの作品

校内巡視をしていると、美術室前廊下で生徒の作品と思われる冊子を発見しました。最初は表紙の絵を見て、「恋愛ものかな？」と軽い気持ちで手に取って読み始めましたが、読み進めるに従い、そのテーマの深さと描写の上手さにどんどん引き込まれていきました。「中学生でここまで描けるものか。」読後は驚きで言葉が出ませんでした。表紙を見返して、題名「ぼくらは今を生きる」と「問題を抱える二人」の意味にも納得。是非たくさんの人に知ってもらいたいと思い、本人の承諾を得て本通信に載せました。二人が抱える問題とは何か、詳細は実際に読んでもらいたいのので伏せますが、人権や共生社会といった現代の課題にもつながる内容ですので、中学生だけでなく大人にも読んでほしい漫画です。顧問の先生に聞くと、「続きを作成中」とのことでしたので、楽しみに待ちたいと思います。

<裏面活用第4弾>

「最後は真剣勝負」

4年前、小学校から転勤してきた私を待っていたものは受験生の担任。しかも生徒指導部というおまけつきだった。「中学校は生徒指導が大変だよ。」と言われたが、その意味すら分からなかった。そして、すぐに試練がやってきた。



応援指導である。

新入生との対面式に向けてエール練習をすることになったが、休み明けの生徒たちは容易には声を出さないらしい。そこで指導部の一員である私に、声が出るように指導せよということなのである。作戦はベテランの先生方が立ててくださった

が、前に立つのは私一人。「小学校から来たばかりの私に、そんなことができるのか。」不安でいっぱいだった。

薄暗い体育館の壇上に立ち、200人を超す3年生を見下ろすと、手足が震え出した。不安を表情に出さないように無理に大きい声を出したが、生徒たちの声は大きくならなかった。いよいよ作戦開始だ。

「これからクラスごとにエールをやってもらう。前のクラスより大きい声が出なかったら、最初からやり直す」。

途端に生徒たちがざわめきたったが、お構いなしで1組からスタートした。初めのクラスはいいが、2番目、3番目のクラスはより大きい声を出さなければならず、何度も何度もやり直しになった。内心、「これぐらいでいいかな。」と思ったりしたが、「真剣勝負だ。」と心を決めてやり直しさせた。

するとどうだろう。見る見る生徒の目つきが変わってきたではないか。2組、3組とクリアしていき、いよいよ最後のクラス。エールが終わった途端、体育館が静まり返った。全員の視線が私に集まっている。合否の判定を待っているのだ。



「よし、合格！」

全員の歓声とともに拍手が巻き起こった。何とも言えない高揚感だった。

応援指導をなぜ私一人にやらせたのか、分かった気がした。中学校の生徒指導はテクニックも必要だが、最後は真剣勝負である。教師が本気になり、体当たりで生徒にぶつかっていけば、生徒もそれに応えるように全力を発揮してくれる。そのことを私に実感させようと、用意してくれた研修の場だったのだ。今もその教えは私の指導理念としてある。